

第 50 回日本臨床細胞学会春期大会

胸部間接 X 線検査と喀痰細胞診の併用による肺癌検診の成績

(財)福島県保健衛生協会¹⁾、公立大学法人福島県立医科大学医学部呼吸器内科学講座²⁾、公立大学法人福島県立医科大学医学部附属病院臨床腫瘍センター³⁾、(財)慈山会医学研究所附属坪井病院⁴⁾

○室井祥江 (CT)¹⁾、佐藤丈晴 (CT)¹⁾、神尾淳子 (CT)¹⁾、柴田眞一 (CT)¹⁾、
石田卓 (MD)^{2)、3)}、森村豊 (MD)^{1)、4)}

【はじめに】肺癌検診における喀痰細胞診は、胸部間接 X 線検査との併用により行われている。私達は、本検診により発見された原発性肺癌について、発見動機別に調査したので報告する。

【対象と方法】2002 から 2008 年の 7 年間に実施した住民検診で、両方の検査を行った受診者は延べ 49,722 名であり、予後調査により 83 例 (10 万対 169) の原発性肺癌が見出された。これら 83 例を喀痰細胞診のみにより発見された群 (A 群)、胸部間接 X 線検査のみにより発見された群 (B 群)、両者により発見された群 (C 群) の 3 群に分け、それぞれについて組織型と病期を比較するとともに、過去の検診受診歴を調査した。

【結果】A 群は 31 例で、その内訳は、扁平上皮癌 21 例 (67.7%)、腺癌 1 例 (3.2%)、その他の癌 4 例、調査不能が 5 例であった。病期 I 期 / II 期 / III 期 / IV 期 / 不明は、それぞれ 16 (51.6%) / 3 / 4 / 0 / 8 例であった。それらの検診受診歴は、癌発見年から過去 2 年間連続受診のある 15 例のうち、9 例 (60.0%) の病期は I 期であった。B 群は 29 例で、扁平上皮癌 5 例 (17.2%)、腺癌 10 例 (34.5%)、その他の癌 4 例、調査不能が 10 例であった。病期 I 期 / III 期以上 / 不明は、12 (41.4%) / 7 / 10 例であった。C 群は 23 例で、扁平上皮癌 13 例 (56.5%)、腺癌 5 例 (21.7%)、その他の癌 3 例、調査不能が 2 例であった。病期 I 期 / II 期 / III 期以上 / 不明は、4 (30.8%) / 1 / 12 / 6

例であった。

【まとめ】83例のうち54例(65.1%)が喀痰細胞診から発見された。A群では病期Ⅰ期の占める割合が高く、経年受診をしていることが早期発見に繋がったと考えられる。肺癌検診においては、喀痰細胞診を継続して行うことが重要であると示唆された。